

平成 29 年度 第 2 回 佐渡市総合教育会議 議事録

開催日	平成 30 年 2 月 5 日(月)	会場
開会時刻	午後 3 時 00 分	畑野行政サービスセンター 3 階 大会議室
閉会時刻	午後 4 時 26 分	
出席者		
市長 三浦 基裕	教育委員会 教育長	渡邊 尚人
	教育委員会 教育長職務代理者	佐藤 辰夫
	教育委員会 委員	仲川 正道
	教育委員会 委員	中村 友子
	教育委員会 委員	信田 恵子
説明のため出席した職員		
総務部総務課 課長 甲斐由紀夫 課長補佐 北見 和子 企画財政部企画課 課長 岩崎 洋昭	学校教育課 課長 吉田 泉 管理主事 山田 裕之 課長補佐 伊藤 賢治 総務係主任 佐藤 若菜 社会教育課 課長 越前 範行	
傍聴人数	0 人	

会議に付議した議題

佐渡市教育振興基本計画の評価について

<p>・ 吉田学校教育課長</p>	<p>◎本総合教育会議は、午後 3 時 00 分から開催した。</p>
<p>・ 三浦市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本日はご多用の中、平成 29 年度第 2 回佐渡市総合教育会議にご出席いただき、ありがとうございます。定刻になりましたので、会議を開催させていただきます。</li> <li>・ なお、本会議につきましては公開しておりますので、よろしくお願いいたします。</li> <li>・ なお、本日の議題は、佐渡市教育振興基本計画の評価についてであります。</li> <li>・ それでは、議事の進行につきまして、佐渡市総合教育会議運営要綱第 3 条第 2 項の規定により、三浦市長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。</li> </ul>
<p>・ 越前社会教育課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ それでは、よろしくお願いいたします。</li> <li>・ 早速議題に入りたいと思います。佐渡市教育振興基本計画の評価についての協議をさせていただきます。</li> <li>・ この件について、事務局の方から説明をお願いいたします。</li> <li>・ 社会教育課です。この後会議がございますので、先に社会教育をやらせていただければと思います。よろしくお願いいたします。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ それでは、お手元に平成 29 年度の社会教育課の所管事業概要がございます。カラーのものをご覧いただきたいと思います。上の方に教育振興基本計画と書いてございますが、6 つの基本目標のうち、社会教育につきましては 4 つの基本目標を設定しております。現在、この 4 つの基本目標をもとに中段にございます基盤事業が、この 4 つの基本目標にぶら下がり事業を進めているところでございます。</li> <li>・ それから、右側の方に施設の統廃合、それから改修計画というものがございます。基盤事業、それからこの後もありますが、31 年度末までの到達目標ということでの基本目標、施設の統廃合の改修計画、それぞれ到達目標が書いてありますので、ご覧いただきたいと思います。</li> <li>・ それで、教育振興基本計画においての注目すべき数値の一覧ということですが、社会教育につきましては、特に基本目標の 5 の一人一人が学び続ける生涯学習の充実というところで 7 つの到達目標を掲げております。施策の 12、13、14 が 2 つ、15 が 2 つ、16 が 1 つということで、7 つの K P I であります。</li> <li>・ 13 の成人のスポーツ実施割合、これにつきましては今後無作為抽出のアンケート調査、約 2,000 人規模の調査を行った後、スポーツ実施率の割合を出していきたいと考えているところです。この無作為抽出の調査につきましては、今後のスポーツ推進計画にも反映をさせていくとしており、平成 30 年度中にこの計画の策定を考えております。そのほかの目標数値につきましては、今後の実績をもとに出していきたいと考えております。</li> <li>・ それから、黒ぼちのところ、黒の四角が 2 つございます。1 つは、総合型の地区コミュニティクラブの設立、それから文化振興財団の本格始動とい</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三浦市長</li> <li>・ 吉田学校教育課長</li> <li>・ 三浦市長</li> <li>・ 仲川委員</li> <li>・ 越前社会教育課長</li> <li>・ 佐藤委員</li> </ul>	<p>うことで、この2つを我々とする追加で31年度末までの到達目標として掲げていきたいと考えております。総合型につきましては、今後モデル地区を設定して、そこから地区別の地域コミュニティクラブを設立していくとしております。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ それから、文化振興財団につきましては、本年7月に設立がされるということで、今設立の準備会を立ち上げて、そこで設立に向けてのご協議をさせていただいているというところでございます。</li> <li>・ 社会教育課長の方から説明がありましたが、この説明の中で不明な点等がありましたらお願いいたします。意見交換等は別々にやるんですか。</li> <li>・ 社会教育課を先にお願ひします。</li> <li>・ では、この資料に基づいて、今の説明を踏まえて、委員の皆様からご意見等ありましたらお願いしたいと思ひます。新しい目標も入ってございますので、ゆっくりと見ていただければと思ひます。</li> <li>・ それでは、お願ひします。入り口論で申し訳ないんだが、たしか前に「一人一人が学び続ける生涯学習の充実」というのは「社会教育の充実」に直したと思ひますが。</li> <li>・ すみません。「社会教育」に訂正を願ひます。基本目標のところも訂正お願ひします。</li> <li>・ 今ほど社会教育課にかかわる各事業や施策についてご説明いただきました。ありがとうございます。お聞きしまして、また日ごろからこの各施策設定に携わった者として1年間見せていただいて、大変各部署、各施設等、こういった方策に向けての取組が明確に出ているなど、こういうふうにとめております。本当にお疲れ様です。まだまだ進捗過程にあるもの、進めている過程にあるもの、また成果がこれから出るものと、こういうことでありますが、これからのものということで特に基本目標の6番に掲げるコミュニティ・スクールについて、今ご説明いただきました。コミュニティ・スクール、もう本当に長年早いころからこのコミュニティ・スクールの設置については聞いておりましたが、いよいよだなというふうに思ひます。</li> <li>・ そういった中で、これまで文科省、国レベル等で示されているコミュニティ・スクール、大変さまざまな立場の人たちがかわるというようなスタイルだと思ひますが、佐渡の実情からいってぜひとも内容の濃いものにしていただくために、各学校の各地域の状況に、状態に応じて設置を進めていただきたいなど、こう思ひます。</li> <li>・ そういった中で、コーディネーターの配置ということでとりあえず進めていくということですが、ぜひとも説明の中では地区コミュニティ・スクールと、こういうふうに地区という言葉を加えておられますが、特にこの本当に地区の実情に合わせた、また学校の要望等に耳を傾けて設置していただきたいなどというふうに思ひます。</li> <li>・ 学校現場も大変さまざまな機関からの取組要望等もありますので、また</li> </ul>
--	---

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三浦市長</li> <li>・ 越前社会教育課長</li> </ul>	<p>そういった形から入るというよりも、実情から、また要望も取り入れてこのコミュニティ・スクールを構成していただきたいなと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今の佐藤さんの意見に対して社会教育課から補足はありますか。</li> <li>・ この総合型の地域コミュニティクラブとコミュニティ・スクールとは違いますので、こちらの方はどちらかというスポーツクラブをもう少しやわらかく文化も入れた中で、例えば将棋をそこでやるとか、そういうクラブを地域でつくっていくということでもあります。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 佐藤委員</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ わかりました。失礼しました。各市町村でそれぞれ 15 年ぐらい前からでしょうか、次々と立ち上がって、そのあたり効果というか、進捗状況というか、そういった事業者の意見等を組み入れながら、これまでもいっぱいありますので、ぜひよろしく願います。失礼しました。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三浦市長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コミュニティクラブの設立では、具体案が固まり次第ご報告させていただくことでよろしく願います。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 越前社会教育課長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ はい、願います。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三浦市長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ほかに何かございますでしょうか。</li> <li>・ 特にないようでしたら、社会教育関連は終えて、学校教育の方に議案を移らせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。</li> <li>・ はい、ありがとうございます。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 越前社会教育課長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ すみません。この後会議があるものですから、退席させていただきたいと思います。ありがとうございます。それでは、失礼します。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三浦市長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ それでは、学校教育課の方の部分に移らせてもらいます。</li> <li>・ 事務局の方からご説明願います。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 山田管理主事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校教育課管理主事、山田裕之と申します。私の方から学校教育にかかわる部分については説明させていただきます。では、座って説明をさせていただきます。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 29 年 4 月に策定しました佐渡市教育振興基本計画、学校教育課ではこの中で主として学校教育にかかわる基本目標と施策について、その数が多いということもあり、特に重点的に取り組むものを年度ごとに設定し、年度ごとの評価と数値目標を定めて、その達成に取り組むこととしてここまで進めてまいりました。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ それを示したのがお配りしてあります A 3 の資料、平成 29 年度佐渡市学校教育の重点です。ここではその学校教育の重点にある取組内容について、実際の数値を示しながらここまでの成果と課題について明らかにするとともに、今後年度に向けた取組を検討するに当たり、本日の総合教育会議で市長並びに教育委員の皆様のご意見を伺いたいと考えています。なお、現在まだ年度途中ということで、成果が出ていないものや途中経過の報告となっているものもありますので、ご了承ください。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ それでは、もう一つの資料、A 4 サイズ 3 枚とじの資料を使いまして成果と課題等について説明させていただきますが、必要に応じて A 3 判の資料</li> </ul>

も参考に見比べながら進めていただきたいと思います。

- では、1 ページ目から説明をします。基本目標 1 …学ぶ意欲を高め確かな学力等を育成する教育の推進では、施策 1 学ぶ意欲を高め確かな学力を育成する教育として、①、②、③と 3 つを掲げました。①は、全国学力・学習状況調査の成果です。②は、NRT 検査の成果です。③は、家庭学習習慣の確立についての調査結果です。
- まず①、全国学力・学習状況調査につきましては、そこに書いてあります実際値をご覧くださいとわかると思いますが、小学校の方はおおむね全国平均に到達しているという状況です。ただ、国語 B、算数 B、B 問題の方が全国平均をわずかに下回っておりまして、活用力の育成が課題となっております。来年度も今年度と同じ目標値を設定して、そのまま継続していくということで話を進めてきました。
- 中学校につきましては、国語 A のみ目標値を上回っております。その他の科目では目標値には届きませんでした、目標値に近づきつつあります。平成 28 年度はさらに全国平均よりも低い状況ではあったのですが、それが大分近づいてきているというふうに我々の方では考えております。特に数学は大幅に数値が上がり、全国平均が見えてくるところまで来ているという感覚です。数学学力向上プロジェクトというプロジェクトを立ち上げまして、3 年間中学校の数学の教師の授業力向上ということで取り組んできたんですけども、その成果があらわれてきているというふうに考えます。参考までに新潟県平均との比較ということで下の吹き出しの方にも載せておきましたので、ご覧ください。
- ②番、標準学力検査 NRT につきましては、現在各学校で実施中です。ほとんどの学校が先週くらいまでに各学校で実施して、今採点の方に出している状況です。集計結果は 3 月下旬になりそうだということですので、また数値がまとまりましたらお示ししたいと思っています。
- 3 番、③です。家庭学習習慣の確立です。これにつきましては、小学校では目標値を若干下回りましたが、前年度比よりも 5% 数値がアップしております。また、中学校では、目標値を上回って、さらに昨年度の数値よりもプラス 10% ということで、各校において成果が上がってきているというふうに見ております。学力向上推進プランに基づいた継続的な取組が徐々に成果としてあらわれてきていると判断しています。しかし、学校又は学年の集団によって差が見られるという課題がありますので、今後は家庭学習習慣の確立に向けた市教委奨励の取組について研修会等で共有するなどして、より多くの学校に浸透させていくことを考えています。
- 2 ページ目に進みます。基本目標 1 の施策 1 の①、②、③に関しましては、来年度学校教育課の指導係の意見としましては、①、②については 29 年度数値を継続し、この目標の達成を目指すということで考えています。波線が引いてあるのが目標数値です。③については、中学校が既に今年度の目標数値を達成したということを受け、来年は 29 年度数値よりも中学校を

5%アップして進めたい。そしてさらには、将来的には中学校のパーセンテージが小学校のパーセンテージを上回ることを目指して指導を進めていきたいというふうに考えています。

- 施策2番に移ります。豊かな心、倫理観、規範意識を育む道德教育です。ここでは、①、道德の授業の全学級公開、②番、人権教育、同和教育に関する内容の2つを重点として掲げました。①につきましては、小中学校全ての学級で道德授業を公開することを100%の目標で考えて実施してきましたが、そこに実際値があるように、小学校はわずかですが、届きませんでしたし、中学校はまだ半数という状況です。来年度から小学校の道德が、特別の教科化されますし、31年度から中学校も教科になりますので、この機会を捉えて全校一斉道德授業参観日の実施を強く訴えていきます。来年度こそ100%になるように指導していきたいと考えています。
- ②番につきましては、小学校では78%、中学校では69%です。目標値の100%には達しておりません。我々としても、これは十分と言える数値ではないと考えています。平成30年度、佐渡市を会場とした同和研究集會が行われます。実践発表を小学校、中学校、高等学校で1校ずつ発表してもらうことになっています。その例などを一つのきっかけとして年間2回実施しなければいけないことになっている同和教育に関する校内研修のうちの1回は、指導案づくりであるとか、そういったものについて活用していただくように、こちらからもまた指導をしていきたいというふうに思います。また、総合教育センターの主催の研修でいい実践をしている学校の実践例等を紹介しつつ、よりよい校内研修のあり方について指導する機会をつくっていかうと思っています。
- 施策2にかかわる平成30年度の重点目標につきましては、点々四角の中にあるとおり、①、②とも100%とし、今年度の数値を継続していくということで市の方では話を進めました。
- 基本目標2番、キャリア教育に関する内容です。ここでは、施策6、佐渡を知り、愛し、誇りとするキャリア教育を重点に掲げ、①、②、③の内容について数値を掲げて取り組みました。
- ①、佐渡学を実施している割合、目標値が100で、全ての学校で実施しています。この数値を落とさないで継続していくことこそが大事だというふうに考えております。まずは100%達成したからといって油断をせず、この100%の数字が継続していくように今後とも指導していきたいと思っておりますし、内容についても質的向上が図れるように、指導主事による学校訪問等で指導していきたいというふうに考えています。
- 3ページに移ります。②番、課題解決学習を取り入れた職場体験です。これは、中学校で実施している内容です。目標値は60%と掲げましたが、実際には46%ということになりました。13校のうち、本年度までで実施しているのは6校ということになります。ただ、これにつきましては来年、再来年と年次計画で取り組む学校を増やしていく予定にしております、来年

度は4中学校を追加し実施、再来年度には残り全ての学校を追加して、100%を目指して進めていくということです。したがって、来年は4中学校を追加して実施することによって、目標値の方を76%でどうかというふうな提案が担当指導主事の方からありました。

- ・ 3番、キャリア教育グランドデザインに基づいたキャリア教育を全学年で実施している割合、これは独自にアンケートをとって確認をしましたところ、小学校の2校、一部の学年でのみ実施したと回答した学校がありました。そこで、小学校の方は実際値は92%、中学校の方はもう100%ということで推移しております。いずれも今年度の目標値は上回っていますが、31年度教育振興基本計画に掲げた目標数値は100%ですので、ここでもう一気に来年は100%達成を目指すようにして動いていきたいというふうに考えています。学校がもう明らかにわかっていますので、担当指導主事の方からこの後直接確認の電話を学校に入れて、全学年に広げるような指導をしていくということで取り組んでいきます。
- ・ 点々四角に掲げましたが、施策6にかかわる30年度の重点目標は、①は小中とも100%の達成を目指します。②は、76%以上とします。③は、一気にこれで100%を目指せる状態になったと考えまして、80%の目標値から100%に20%アップして取り組んでいくということに指導係の方では考えました。
- ・ 基本目標3、安心・安全な学校づくりです。これについては施策9の生徒指導体制ということで、①、いじめの解消、②、不登校の発生率の減少というこの2点について取り組みました。いじめの解消につきましては、100%解消したいという思いで目標値は100%としましたが、実際のところなかなかこじれて長引いているケースがあるというのが現状であるということです。ということで、実際値の方はそこに掲げましたように、93.3%、71.4%ということになっています。ただ、これまだ今年度は終わっておりませんので、この年度末までにはとにかく解消したいということで、今担当指導主事と学校の方と連絡をとり合って対応している最中でありまして、今後また解消ができることを期待しているという状況です。担当指導主事の方からは来年度の中学校の目標を少し下げたらどうかという提案があったんですけども、ただそれについてはまた後で説明します。
- ・ 4ページに進みます。不登校の発生率、これにつきましては2学期末までの現在ということで数値を集計してあります。実際の数値はそこに書いてあるとおり21人、42人ということで、パーセントにすると小学校が0.84%、中学校が4.08%ということで、大変高い数値が出てしまっているという状況です。参考までに全国値と新潟県値を載せてありますが、これに注釈を入れなくて申し訳ありませんでした。両方とも平成28年度の数値です。昨年度の数値ということで紹介させていただいております。残念ながら成果としては、むしろ悪化しているというのが担当指導主事からの正直な回答でありました。課題についても、そこに書いてあるとおりです。一旦長期で休み始

めるとなかなか改善できないという現状に、今対応に非常に苦慮しているという状況です。

- そして、平成 28 年度から全部の小中学校で佐渡市共通の心の健康チェックを実施することによって同一規格で子どものことを見ていくということと、あと担当指導主事がそれを分析することで学校訪問を頻繁に行い、直接学校の方に指導していくということで対応しているのですが、逆にその分数値が掘り起こされたという反面もあると思うんですけども、不登校の方は非常に増えているという状況です。
- 次年度目標値は少し上げたいというふうに担当指導主事の方から話があったんですけども、それについてはまた指導係の方で全体で協議しまして、その下の点々四角、施策 9 にかかわる 30 年度の重点目標のところを聞きましたら、31 年度に向けて基本計画の中、一番後ろに載っている数値を目指して取り組まなければいけないわけですので、ここで数値を後退させるわけにいかないという判断で、今年度の数値をとにかく維持して、そこを目標に頑張るということで話がまとまりました。いじめの解消は、小中とも 100% を目指していきますし、とにかく継続して粘り強く対応していく、いつまでもほったらかしという言葉が悪いんですけども、それよりも悪くならない、少しでも改善するようという取組を粘り強く続けることで 100% を目指そうという話です。
- ②につきましては、来年度数値がかなり高くなる可能性はあるのですが、何かしらの新たな方法、手立てを取り入れることで少しでも食いとめたいということで、目標値については 29 年度数値を継続しています。新たな支援方法として提案されたのが、まず小学校段階での未然防止の取組をきちんとやろうということで、研修、校長会での連絡会、各戸別の訪問等でしっかり対応していこうということと、子ども若者課を初めとする関係機関との連携を今以上に強化して、いろんな面で有機的に動けるような体制をとろうというこの 2 点について取組としてやっていく予定です。
- 基本目標 4、高等教育・研究機関との連携についてです。ここについては、施策 10、大学や研究機関の関連施設、職員を活用した教育活動を実施するということを目指しました。小学校、中学校とも目標値には達成しませんでしたし、中学校の方はまだまだ低いという現状があります。これにつきましても、来年度以降また研修会等で有効に活用できている事例などを紹介することによって、各学校に活用機会を増やしていくようにして取り組んでいきたいというふうに考えています。
- 2 番、ICT システムを活用した研修会につきましては、今年度 5 回実施したいという目標を立てたところ、実際にも 5 回実施できました。この遠隔操作の研修会が大変好評だということもありまして、来年は少し回数を増やして対応しようということで今進めているところです。ですので、最終目標値も上げていきたいというふうに考えます。
- 一番下、施策 10 にかかわる 30 年度の重点目標を点々四角に入れました。



<p>・ 三浦市長</p> <p>・ 山田管理主事</p> <p>・ 三浦市長</p>	<p>①番につきましては、小中で 80%の目標を維持して、来年度はこの数値に近づく、あるいはそれをクリアするように、各学校に具体的に指導していきたいというふうに考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2番につきましては、研修会を7回に増やして、31年度目標が7回なんです。30年度中に一気に31年度目標を達成してしまおうということで、これから研修会の内容について検討していきたいと思っています。</li> <li>・ 5ページです。基本目標6、家庭教育・地域教育充実のための取組の推進です。この部分については社会教育課とかぶる部分もあるのですが、学校教育課として取り組んでいるところについて重点に掲げて評価をしています。全部で3つ数値目標を立てて取り組みました。</li> <li>・ ①番、PTAと連携した家庭教育啓発活動です。これにつきましては、各学校に調査を入れたところ、81%の実施ということです。もう少しで目標の90%に達成するという状況になっていますので、今後は同一中学校区で連携して取り組む等の指導を入れることで数値の向上を目指し、目標達成を目指していきたいと思っています。</li> <li>・ 2番、平日のテレビの視聴時間が2時間以下というものについては、小学校の方が中学校よりも悪いと。なおかつ、小学校は前年度よりもさらに数値が下がっているという状況があり、小学校に対する指導が必要であるということがわかりました。</li> <li>・ ③番についても小学校が前年度比よりも下がっていて、中学校には少し改善が見られるという状況です。小学校段階からのテレビ、ゲーム、スマートフォン等のコントロールに関する取組が課題です。市P連でメディアコントロールに関するルールに基づいた取組を確保で継続してもらっているのですが、特に来年度は小学校に焦点を当てて指導を入れていくということをやりたいと思っています。</li> <li>・ ということで、施策17にかかわる平成30年度の重点目標は、①番については今年度と同じ目標の90%以上を目指します。2番につきましても、今年度と同じ目標で目指します。3番についても同じ目標で、来年度こそは数値の達成を目指したいというふうに考えています。また、これ以外に新たに重点目標に加える項目も何か必要があれば考えていきたいと思っておりますので、今後の意見交換の中で提案いただければありがたいと思っています。</li> <li>・ ありがとうございます。まず、今ほどの説明していただいた資料の中で不明な点、疑問等がありましたら意見交換の前にお願ひしたいと思います。何か資料についてありますでしょうか。</li> <li>・ ないようでしたら、意見交換に入ってよろしいですか。一応基本目標ごとに区切ってやった方がいいですよ。</li> <li>・ はい。</li> <li>・ そうしたら、基本目標1、①、②、③までございますが、2ページ目の途中までについて、まずここでの意見があればと思いますが、よろしくお願</li> </ul>
---	--

<p>・ 仲川委員</p>	<p>いします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ それでは、発言させていただきます。仲川です。</li> <li>・ 教育委員をさせていただいて、3年目の半ばを過ぎたところです。委員の中で一番の古株になってしまいました。その3年の中で、大きな組織の変化が2つあったと思います。1つがこの総合教育会議を法に基づいて立ち上げたこと。そして、若干遅れはしましたけれども、新教育委員会制度が昨年5月に佐渡市で立ち上がったこと。この2つの組織改編が大きかったと思います。</li> <li>・ それに基づいて伺います。今説明のあった細かいことについては、教育委員会議の中で教育委員で意見を戦わすことができるんですけども、せっかくの総合教育会議でありますので、一番古株の委員としては市長さんの持っている教育観、佐渡の将来像、どのような人材育成をしてもらいたいかというところを私は知りたいと思っている。それから教育委員長と教育長が合体した新教育長として、今回のこのデータをどう評価しているのか。我々委員よりもこのお二人の意見を知りたくてここに参加している。いかがでしょうか。</li> </ul>
<p>・ 三浦市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ すみません。ここの各学力的な数値目標については、これは逆に言うと教育委員の皆様が達成率も含めてどの辺にスタンスを置くべきかというのは、教育委員の皆様の記憶や考え方に私自身は準じたいというふうに思っています。</li> <li>・ その一方で、ここの……今の質問だと。1つは、やはりここの教育の中でいっても、学力以外の部分の人間形成に係る教育のところをどうやっていくかというところに自分自身はかなり注意をしたいというところがございます。よって、例えば基本目標2の佐渡に対する郷土愛に対してキャリア教育の推進という部分についても、数字上は100%ということになっていますけども、この辺のところは、もちろんこういうものを計画立てる上で数値は必要かもしれません。この数値目標よりもそのキャリア教育の中身を、どれだけある程度の節目、節目を決めてしっかり切りかえていくかという考え方はもう私は非常に大事だと思います。例えば小学生に対して、しかも小学生などでも低学年、高学年、あるいは中学生というふうに、やっぱり世代、世代に合わせた中でどのようなキャリア教育というものを施していくべきなのかというものをいかにもう少し見定めていく必要があるのかな。それが一番特に、個人的な感覚ですけども、その郷土愛を育てている中で一番反応しやすい世代というか、影響を受けやすい世代、私小学校の低学年だと思っていますので、そこのまず所定の郷土愛に対するものも含めたキャリア教育の中身をどのようにしていくかというのがかなり緻密にとというか、細かく配慮した中でどこまでこの範囲でということは決めて、世代ごとに段階を踏んでいくかという考え方を取り入れていければ、より効果が上がるのかなというふうに思っているのが1つです。</li> <li>・ それともう一つ、これはなかなか駆けっこになって難しいと思うんです</li> </ul>

けど、いじめ及び不登校、ここの部分については、やっぱり学校側と保護者、さらにそれに絡む家族等とのどこまで連携した対応ができるかどうかという部分でいいますと、実際今年の頭、子ども若者課というのを市役所の中で別立てで独立させていただきました。けれども、やっぱりまだスタートしたばかりなものですから、どうしても教育委員会、例えば学校教育課なり、子ども若者相談センター、そして子ども若者課、例えば普通の先生方を含めたところの連動した対策というものがまだまだできていないというふうに私自身も感じております。その辺のところ、やっぱりまず最初にそここのところを一つ一つこの数字も減らして不登校等も減少させていくためには、まず学校側、保護者、それと相談を受けるセンターなりのほかは、このそれぞれの立場からの情報が包み隠しなく全て共有できる環境をどこまでつくれるかというのがかなり大きな問題だと思います。どうしてもこれは、私自身の立場で言っているのかわからないですけども、大きな割り切った意見を言わせてもらえば、教育委員会と市長部局の連携が今私見していると全然できていない。これは実感としてあります。その辺のところの行政側の縦割り部分をどこまで壊す、そこが壊していければ、保護者と教える側なり、相談所も含めたところの情報共有がもっともっと進んでいくのかなというふうに思います。

- その意味では、こっちの今言ったいじめ、不登校の方の問題は、こういう教育目標の数値というよりも、まずそこを、子どもたちを支えていく、各方向から支えていく人らのどれだけありのままの包み隠さない情報共有をこれから進めていけるかというものが、一番結果として大きく出てくるのかなというふうに思います。その辺のところの課題が一つ一つ克服されていくという現象が生まれてくれば、これはある意味人間的にも少しずつ強い子どもたちが育っていくということにもなるかと思っておりますので、その辺のところは私自身とすればいわゆる学力以外の面では注意をしたい点だというふうには思っています。

・ 渡邊教育長

- 私の方は、所信表明のところで話をしていると思うんですが、まず学力と、それからキャリア教育というのは教育の両輪であるというふうに思っています、今回佐渡の場合ですね。

- まず、その学力については、現在小学校、中学校ともに全国以上という目標があるというふうにあります。じゃ全国平均以上どのぐらいまでいければというところが一つのポイントかなというふうに思います。私はまず小学校については、全国平均まで来ているというふうに考えています。この学力テストばかりじゃなくて、県が実施しているウェブテストというのがあります。それらの傾向を見ると、全国平均はもう来ていると。来年の目標は全国平均以上、この目標値に入っていますから、プラス幾つをするかというのがまず問題かなというふうに思います。それから、中学校についても、全国平均以上、最低ラインのところまで抑えていきたいなというふうに思っています。これもいろんなデータから見るとかなり上がってきているということ

で、私としては非常にうれしい結果であると同時に、ここで終わらずに次の目標を立てていきたいというふうに思っています。

- それから、キャリア教育につきましては、やはりこれは佐渡の人口減少と少子高齢化を含めてですが、子どもたちが将来にわたって佐渡で活躍する、または戻ってきて活躍する、そういう機会は絶対に失ってはいけないというふうに思っていますし、それだけの学力をつけながら子どもたちが島外で勉強して戻ってくるという環境づくりの方は教育委員会ではなかなかできませんけども、そういう力をつけてやりたいというふうに思っています。したがって、キャリア教育、今現在小学校から継続的に取組をしているわけです。この成果は確実に出てきているというふうに私は判断をしています。
- この中で、さらに次の目標としてキャリア教育をどうすればいいかということになると思うんですが、ここには地域の連携というのが入ってきているというふうに思っています。来年度の施策の中に、教育委員会という社会教育課と学校教育課の連携をした事業をひとつやりたいです。これは地域の力を学校の中に、学校の子どもたちの元気さを地域に戻そうというような取組につながっているというふうに思っています。それらの施策をしながら元気な佐渡をつくっていくべきだなというふうに思っています。目標はできるだけ大きく持った方が将来のためにもいいかなというふうに思っています。
- それから、市長が言われた不登校についてですが、これについては私の見解としては、これがほぼマックスのデータであるというふうに判断をしています。この中で実際に何ができるのか、どういう原因があって役割分担をどうすべきかというところが今後の問題であるというふうに思います。教育委員会でできることと教育委員会以外で分担できるところがあるというふうに思っています。今教育委員会が全て抱えているという状況ですので、いかにそれを切り分けて、この部分は教育委員会ではできません、この部分は病院です、この部分は子ども若者センターですというような明確な区分をしながら、これは完璧にできるかどうかわかりませんが、役割分担をしっかりとしていくということでも出てくるのかなというふうには考えています。あくまでもこの数字が非常に高いですけども、佐渡の場合には明確に全て出しているというふうに思っていますので、この内容をどういうふうに解決していくかという役割分担が今後の非常に重要なポイントだというふうに思っています。
- 将来、来年に向けて学力をつけるためには、あともう一つ方策あると思うんですが、いわゆるICTの環境の整備の中に日々の学習の仕方では授業方法の改善というのがあるんです。したがって、来年度から電子黒板を使った授業を試験的に導入したいと。3年計画で全ての学校に導入していきたいというふうに思っています。今言われているいわゆるアクティブラーニングという部分についても、非常に効果的な方法といえますでしょうか、それがICTの活用が基本でありますので、佐渡の場合にはICT環境は新潟県で一番

- ・ 三浦市長
- ・ 仲川委員

- おわれていますので、ぜひその辺を改善しながら、授業改善、日々の子どもの人材育成に努めていきたいというふうに考えています。
- ・ 補足、追加で何かご質問等ありましたらお願いします。
  - ・ はい、お願いします。丁寧に答えていただいてありがとうございました。なかなかこういう話がふだんできないと思っていますので、わざと質問させていただきました。
  - ・ 29年度から実施をしている教育基本計画の初年度で、今は初年度の途中段階ですけれども、PDCAサイクルの「プラン」が終わり、それから「ドゥー」が途中で、その中で「チェック」をしている。この後「アクション」が出てくるというそのサイクルにあるわけです。ですから、今の我々の評価は、次年度の「アクション」に向けての「チェック」ということです。特にこの学力の問題は、今回の基本計画の目玉の一つ、柱の一つだと私は考えます。
  - ・ 教育長さんは先程学力以外の2つの面について特に強調されました。昔から言われていることですが、教育は3つの分野があって、知育、徳育、体育と言います。学力はこの知育に当たる。道德教育、倫理観の醸成が徳育に当たり、健康教育が体育に当たる。この学力観、学力をどう捉えるかによって次のアクションが相当変わってきますので、また教育委員会で十分議論をして次の計画を定めてもらいたい。その際に正攻法だけではない観点も必要ではないか。
  - ・ 教育委員会は今まで授業を改善すること、指導方法を向上することで学力のアップにつなげようという、正攻法をとってきているわけです。そこに少し見方を変えることも必要ではないか。ほかにどんな手段があるのかということもぜひ考えてほしい。
  - ・ 例えば全島一斉に朝学習を入れてみる、計算力コンクールを全島でやってみる、英単語力コンクールをやってみるとか、仕掛けを上手につくって学校に活気を持たせる工夫をそろそろ入れ始めてもいい。余りにも正攻法、授業にこだわり過ぎている。それは当然大事なことで、大きな柱なんですけれども、脇を固めることもやっていい。
  - ・ ある市町村では、公営の学習塾をやっています。そのことによって上位層も中位層も下位層もそれなりに伸ばすというやり方をとっているところもあります。そういう柔軟な発想をいろいろ調べて、これから検討してもらいたいと私は考えています。もしアイデアが足りないのであれば、基本目標4のところには高等教育機関、研究機関との連携というのがありますが、せっかく新潟県には国公立の6つの大学がありますので、特に教育に関係している大学の力を借りながら学力向上につながる策を練ってみるのもいいんじゃないだろうか。
  - ・ 政令指定都市では、仙台市が地元の宮城教育大や東北大学の援助を得ながら学力向上に努めて、相当立派な成績を上げていると聞いている。基本目標4にあることを生かしながらぜひ学力向上に努めてほしい。学力は子どもた

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三浦市長</li> <li>・ 山田管理主事</li> </ul>	<p>ちの一生の財産になる。検討の機会があったらよろしくお願ひしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ それから、データの分析について、教育委員会の指導主事さんの方でやられているかどうかわかりませんが、学力と学習時間あるいはスマホやゲームの時間とのリンクをしたデータがとれないものか。確実に学習習慣が学力と関係していると考えているが、そういうデータを小まめにとって出していただければありがたい。さらに学習習慣のデータは1回だけではなくて、今出ているのは春先の6月ぐらいでしょうか。この調査ただ1回だけです。これではデータとしての価値が低い。これが年度の間、最初と中間とどう変わっていくかという追跡もしなきゃいかんだろう。データのとり方も、忙しいでしょうが、できるだけ小まめにやっていただけるとありがたい。</li> <li>・ その辺について、学校教育課の方から答弁いいですか。</li> <li>・ 今のところ、具体的なプランとしては考えておりませんでした。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三浦市長</li> <li>・ 山田管理主事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 例えばデータのとり方等について、やっぱりそういう資料はこういう調査の中であるんだよね。</li> <li>・ アンケートをこれ以上増やすということになるとまた学校現場を多忙化に結びつきますので、中学校長会というのが学力に関する懇談会を定期的に指導主事の方が開いております。その中で、中学校の方で取り組んでいる生データが、今仲川委員のご指摘のようなもの等があれば、それを例えば学期に1回この月は市教委に提供してほしいというようなお願いの仕方をするのでそれぞれそう無理なくデータをそろえることは可能かと思いますが、担当の方に聞いてみないとどの程度の内容で取り組んでいるかということをやちょっとつかんでおりますので、ここでは明確な回答ができません。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三浦市長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学、地元大学連携とかというと、これはまだ全然活用できない。例えば新潟大学さん、佐渡に海洋研究所も山も幾つかこちらに出先機関があるんですけど、新潟大学さんの方はもっともっと利用してくれという言い方は毎年されてはおるんです。だから、ああいう専門的な研究施設なものですから、どこまでどういう活用のでき方があるんじゃないかとかという部分は考えなきゃいけないんでしょうけど、わざわざ来てもらったり行かなくてもある施設をもう少し、例えば職場体験じゃないけど、研究体験みたいなものを使うとかというようなものをある施設は利用させてもらうというのも考え方の一つかなと今思ったりはしたんですけど。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 渡邊教育長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ それは実際の理科とか、そういう海洋生物とか、その場合にはいいんだけど、仲川委員言われるようないわゆる学習支援というのとは違う気がします。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三浦市長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ はい、そうですね。じゃ、その辺も含めてまた検討材料にさせていただきます。</li> <li>・ それ以外何かございませんか。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 佐藤委員</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ はい、佐藤です。進捗状況、効果等それぞれの施策に対してご説明いただきました。いま一度私は基本理念に戻ってこのデータをまた聞かせていた</li> </ul>

できました。明日の佐渡を創る人、世界に羽ばたく人の育成、ここはいいですね、一人一人の自己実現、ここが一番ポイントというか、見落としちゃならんのかなと、こう思います。そして、それを目指した教育推進と、こうなっています。

- そして、課題としては、家庭形態の変容とか、地域のつながり、支え合いによるコミュニティ機能の低下と、こういうのは本当に日々生活していて実感しています。特にこの支え合いによるコミュニティ機能の低下は本当に痛感します。地域の役をやったり、いろんな形でですね。決して一人一人がさぼっているわけじゃないんだけど、何かうまく回らないということを実感します。
- 改めて佐渡の人材の育成、人を増やすというんじゃなくて、人材を生かすということが本当に急務だなというふうに考えています。そういう意味では、小学生、中学生、高校生、本当に期待するところ大であります。今後の政策上、注目すべき数値、それから評価結果見た場合に、やはり3つ、確かな学力の育成、それはもう絶対避けては通れない。学力なくして教育現場は成立しないというふうに思っています。
- 先ほどから教育長からも、仲川さんからも話がありましたが、一步高い目標をまた掲げ、達成状況、進捗状況を踏まえて次の目標を立てる。また、各学校のホームページ等を見ても、ウェブテストの平均以上というのを掲げているところもたくさんある。つまり県全体でどの立ち位置にあるかということで取り組んでいる。私はやはり佐渡に生まれ育って、また島外等でも大変お世話になって、やっぱり立ち位置をつかむという点では佐渡はハンディがあるなと思います。いい意味もあるんですけども、先ほど仲川委員がおっしゃいましたように、やはり客観的に自分の立ち位置が見える、そういった取組を仕掛けていく、こういうのは大事だろうと、こう思います。
- ちょっと乱暴な言い方ですが、佐渡の学校は、私は塾の要素と学校の要素を兼ね備えないとやはり子どもたちに悪いな、こんなふうにも個人的に思っております。というのは、塾というのは客観的なデータをしっかりと示してくる。頑張ったらその手応えを感じさせてくれる。そのかわりこういうところは弱いよと。ちゃんと改善点も指摘する。そういった発想を大人が持つことが大事だろうと、こう思っています。
- それから、キャリア教育の充実であります。佐渡の場合、特に基本目標の2として郷土を軸にしたという冠をつけて重点にしています。確かに、この視点は、県もうたっておりますし、その効果、成果も出ていると思います。これはキャリア教育という言葉だけで振り返ってみると、やはり弱いなとか、狭いなという狭さを感じます。捉え方ですね。このキャリア教育というのは、文科省から、現場に出て20年たちました。平成11年に出ているわけですが、そのときには職業観、勤労観を育む学習プログラムとして出されたと思います。先ほど市長さんがおっしゃった発達段階に即したキャリアという視点がやはり弱いんじゃないかと、こう思います。

- 本来キャリア教育というのは、職業的な発想ばかりでなくて、人間関係形成能力とか情報活用、そして将来設計、意思決定という点で捉えて、そして発達段階に即して、低学年はここまで、中学年はここまで、こういうことで打ち出されたものがいつの間にかどんどん狭まって……狭まってというと悪いですね。重点化されてきてしまったというのが私、気になっております。
- 本来キャリア教育はどういう社会現象からかという、ニート、ひきこもりからであったと思います。これを大前提にしてキャリア教育が出された。もちろん社会は変化していますので、それに今そぐわないと、合わない部分もあるかと思うんですが、そういった点で原点に戻ってもう一度20年前に考えると、やはり学校現場でいけばいじめや不登校にかかわる問題じゃないかと。そういった視点でのキャリア教育という点ではちょっと手薄になっているというか。どちらかという、キャリア教育の視点から見たいじめ、不登校の問題というのは決して対症療法的なものではなく、発生したらどう機能するかじゃなくて、発生させないためにどうするかというものであったてきたものです。
- そういった点で、いま一度見直しする必要があるかなと、それぞれの大人が。そして、学力、キャリア教育を支えるのはやっぱり家庭教育の充実。先ほどちょっと正直言って失礼なことを申し上げましたが、やはりその根底といいますか、地域というものの声にそういった思いや願いを込めて、踏まえて引っ張っていただきたいなど。それからコミュニティ・スクール等の設置等を進めていただきたいなど、こういうふうに思っています。
- ありがとうございます。あと、中村さん、信田さんの方から何かございますか、感想ですね。
- 中村です。私は保護者として、やはり学習の実際の数値が変わらず低いことに残念な気持ちでいっぱいです。小学校のところにあるように、小学校も中学校もそうなんですけど、B問題においては、B問題の活用についてはやっぱり大きな課題かなと思います。うちの子がやっているものを見てもやっぱり活用力が低いなというので、その部分は点数も低くなってるので、その辺に今度は重点を、基礎がせっかく上がってきたので、それを活用してというか、それをそのまま活用問題にも生かしていけるような導きをしてほしいと思うのが親としての気持ちです。ですが、実際教育委員会で見ていると、先生たちは研修とか勉強会を非常にしてくれて、先生の力で、おかげでここまで上がってきたと思いますので、この後はやはり家庭とか児童生徒が頑張るような働きかけがもっと必要なのかなというのを感じました。家庭で声かけをして子どもが学習するように仕向けてあげるのはやはり家庭の力もないとできないことなので、家庭と子どもに競い合う心、頑張る気持ちを持たせていけるような取組ができるといいのかなと思いました。
- キャリア教育と、あと先ほどあったコミュニティ・スクールのお話なんですけど、そういう地域とのかかわり、企業とかのかかわりから佐渡を学ぶ

・ 三浦市長

・ 中村委員



ことができ、人と人とのつながりもできてきます。その中で佐渡のよさを勉強、自然に学んでいったり、優しい心が育まれていくのかなと思っているので、ぜひコミュニティ・スクールは頑張ってお創設をしていただきたいと思っています。そういう学校の中で地域とかかわったり、ほかの人とかかわることのでいじめとか不登校なども減ってくるのではないかなと私自身が思っていますので、心の安定とか心の教育とかというところにすごくいい影響が来るのではないかなと思いますので、ぜひ頑張ってお創設をしていただきたいと思っています。

- ・ 三浦市長
- ・ 信田委員

- ・ ありがとうございます。信田さん何かございますか。
- ・ 信田です。私は、学校のいじめであるとか、それから不登校について、この資料の中で先生書いていただきました生徒、家庭、学校の信頼関係が築けず指導の一貫性が保てないということで、基本目標の3の青丸のところを書いてありました。全く手をこまねいて学校の方でも取り組んでいらっしゃるわけではないんですけれども、なぜできないかというのは、やっぱり頻りに指導主事さんが訪問してくださる、そして支援員の方の働きとかいろいろあると思うんですけれども、通常の先生が授業の中で、それから学校生活を指導してくださる中で、なかなかそこまで手が回らない。先ほど中村委員がおっしゃったように、やっぱり地域の力であったり、それから地域には民生委員さんであるとか、そういうふうな資格とか、役割を持った方々もいらっしゃると思います。家庭の問題、これは先生と話ししていてもなかなかうまくいかないところもあるし、それが地域の人たちがいろいろの機会の中で支え合ったりして、親御さん自身の考え方の変化であったりとか、それからそういう地域の活動の中でまた子どもたちもやっぱりおもしろいな、行ってみたい楽しいなというのがまた一つ不登校の原因からももう少し解消されるようなところもあるんじゃないかなと思うんです。各それぞれのところで、子ども若者課とかそういうふうに、片や民生委員さんであるとか、障害者相談員だとか、私もその一角を担っているものですからあれなんですけど、なかなかその辺連携もないし、学校は学校で困っているんだけど、その声を地域に、個人のそれこそ問題もありますけれども、なかなか声が出ていかない。問題も、先生方も学校で悩んでいる。地域としても、こういう人がいるんだけどな、でもどこから手を差し伸べていったらいいかわからないというようなことだって、まだ何かみんなの頑張りがそれぞれつながっていないのがすごく問題があるんじゃないかなと思います。どこが悪いということじゃなくて、やっぱり一つずつ潰していく。
- ・ 実際例で、どの学校もやっぺらいってらっしゃるかかわかんないんですけれども、赤泊の小学校では民生委員さんが授業を道徳の日ですか、中に入れられたようなこととかあったんですから、そういうのもまた地域の子どもたちであるとか、学校の様子であるとかというのもわかるんじゃないかなという取組だかなと思います。そういう各校で独自、オリジナルでやっている取組であるとか対外地域行事、それで公開行事とかそれぞれあると思うのですけれども、それでも大事にしたいし、やっぱりそれをかかわりを持っている人だけ

<p>・三浦市長</p>	<p>じゃなくて、やっぱり地域の人たちにも伝えていく。そうすると、何かもつといろいろな意味で連動してくる、いい意味で成果もそこへ出てくるんじゃないかなという思いがします。</p>
<p>・渡邊教育長</p>	<p>・ 全員のご意見出ました。あとこの、ちょっと時間がなくて、ここの各施策の中で点々囲みのところが今後の目標の数値と継続なり、変更なりの部分の考え方も出ているのでございますが、この資料の中でここのところはこういうふうに修正した方がいいんじゃないかというようなものがありましたら、それについてもご意見いただければと思いますが、先ほど教育長の言っていた全国平均プラスいくつというのは、とりあえずその辺のところの来年度の目標については、29年度のところを学力については継続とかNRTはまだ出ていないので、ちょっとまだはっきりは言えないと思いますが、その辺も含めてご意見があったら話していただいて、教育委員会の方でもう1回もんでもらうということもできると思いますので、あれば教えてください。</p> <p>・ ちょっと補足になると思いますが、先ほど中村委員の方から申された家庭学習、地域の教育の充実のための取組ということで、テレビとかスマートフォン等の関連のデータなんですけど、これはPTAの資料とか、そういうところにこの傾向は出ている資料はあります。PTAの連合会、それから文科省のこの学力テストの中でも関連して調べていると思うので、そのデータはお示しできるというふうに思います。今後その学力を上げるためには家庭の力を使ってというふうな話ですが、やはりこの大事なところは現状あるところでやっていくとしたら、まず一つの課題はここだというふうに、それからその家庭の中で協力をして子どもたちを見てあげるということも大事なというふうに思っています。例えば、ことばの教室とか特別支援関係のところに行きますと、最近の傾向としては親が子どもを連れてきて、はい、お願いねと言ってそのまま帰っちゃうんだそうです。だから、実際にはどういう指導をしているのか、これは家庭でもできるわけです。それを家庭でもやっていけば、もっと早く改善できるかもしれない。今の状況でいうと、そういう部分が少し抜けてしまっている。このスマートフォンとか、テレビの話も同じだと思います。そういう面の強化をしていく必要があるかなというのが我々今考えているところですが、なかなかこれは施策で云々くんぬんというよりも呼びかけているところが強いと思いますので、ぜひ今後そういうのを語りかけていきたいというふうに思っていますが、皆さんの方からこうすると家庭ではうまくいくなというのをいただいたら、我々もそれを施策の方に入れていきたいなというふうに思っておりますが、よろしくお願ひします。</p>
<p>・三浦市長</p>	<p>・ その他ございませんか。もしなければ、一旦これでまた教育委員会の方で今日のご意見まとめさせていただいた上で皆さんに確認していただくという作業になると思いますが、よろしいですか。</p>
<p>・佐藤委員</p>	<p>・ 今教育長さんがおっしゃった。私は基本的に保護者は、言葉は悪いんですが、先生方以上に子どものことで悩んでいる。これはもう大原則だと思います。これは自分が親としてもそうなんですけど、そういうスタンスでいかに</p>

課題を共有化できるかが私はポイントだろうと、こう思っています。したがって、この関係機関の連携とか、そういったものがこの辺になります。そのときにいかに客観的なデータをもとに話ができるか、課題を共有化できるかがやっぱり勉強なのかな、こういうふうに思います。そういう点で、日本人はそれがやはり、日本は苦手というか、具体的に出すことをやはりよしとしない文化があると私は思っています。

- 教育経済学という分野があるけれども、その学者の方は、自分たちの立場は非常に弱い。もう海外からいろんな教育概念の方策の概念が入ってくるけれども、学者はそこを伏せて、こうするとこうなるみたいなプログラムで、特異な発想で迫ってくるので、非常にちょっと不満なんだけれども、教育経済学で大事なことは、これだけの投資をして、これだけの取組をして、どれだけの経済効果が出てくるかということであると思うんです。したがって、極端なことを言うとこれ不可能に近いかと思うんです。発想としては、私はキャリア教育をこれだけやりました。これだけやったら、これができないのがちょっとつらいんですが、やらないよりもこれだけやったらこれだけUターン者が増えましたとか、又は佐渡に経済効果が出ましたとか、こういう捉えができないのが一番つらいところです。しかしそれを求めるといって、そういう視点を持つということは私は大事だし、課題を共有化することで一つのしようという意識になるんだろうなと。したがって、保護者も学校は、先生はとマイナスの面でおっしゃるときには、自分自身にも同じ課題を抱えていて、もうおもはゆい気持ちがそういう形が出るんだろうなと、こういうふうに私は考えているんですが、そういう意味で評価を大事にしたいなと。やっぱり評価を生かしたいなというか、生かしていかなきゃいけないと、こう思っております。

・ 三浦市長

- あと、直接なんじゃなくて、地域のコミュニティづくり、要するに地域の世代間のちゃんとした触れ合い、交流というものも人間形成に大きな部分でいうと、例えば現状として学童保育とか延長保育をやれていないへき地の地域とかは、対象の子どもが少ないのと延長保育、学童保育を引き受けてくれる方もなかなかいないという悩みがあつてできていないところ多いんですが、その辺のところをちょっとこれから教育委員会も我々も一緒になってちょっと30年度以降検討しようということで、とりあえずこの間子ども若者課の予算査定のときには言わせてもらったんですけど、そういう過疎地域について高齢者の地域の茶の間づくりというのを社会福祉の方でやりたい。いや、そこに子ども若者課や教育委員会の地域の茶の間をつくったら、そこに延長保育なり、学童保育も一緒になって、そこに行ったら親御さんが夕方帰ってくるまで一緒にいられるみたいな、あわせ技の考え方もあるじゃないかという話はさせてもらったりもしているんですけど、その辺も含めていろんな方法をやってみて効果もということ、今のでやれていなかった分たまたま今のは苦しい状況で苦しい状況をうまく解決しろという発想だけなんですけど、でもその結果どうなるかというようなことも考えてありますの

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仲川委員</li> </ul>	<p>で。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ちょっと話が飛ぶかもしれませんが、さっき佐藤委員が言われたことに関連して話します。家庭教育の支援という意味なんですけども、かつてイギリスの教育大臣が小中学生の学習時間について、小学生は家庭でこれだけ勉強、中学生はこれだけ勉強、これが標準ですという言い方をしたことがありました。それは何かというと、国が家庭を支援すること。つまり国の標準を指標として目指しましょう、となれば家庭が指導しやすくなるんですね。それと似たような手法ですけれども、佐渡でも小学校低学年はこれだけ、中学年はこれだけ、高学年はこれだけ、中学生はこうだというような指針を示しても私はいいと思います。これは家庭への圧力ではなくて、親御さんが自分の子どもを家庭で学習面でしつけるという時に大変役に立つことだと思います。</li> <li>・ それから、全く別件で申し訳ないんですが、学校教育課長さん、今日の総合教育会議は第2回ですけど、第1回はいつでしたか。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 吉田学校教育課長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4月25日です。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仲川委員</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4月25日ですね。大分長期間やっていませんでしたね。何でこのような質問させていただくか。教育委員会の中で一度発言をさせてもらったことがあるんですが、教育委員会の形骸化ということです。新教育委員会制度にかわって、そして総合教育会議を立ち上げたとき、文部科学省の研修会に出させていただいた。新制度では教育行政あるいは新教育長をチェックするというのも教育委員会の大事な仕事であり、重要事項についての意思決定をする役割も教育委員は持たなければならないと研修した。そのために総合教育会議も上手に利用しろということだった。ところが去年6月30日、第9回定例教育委員会を開いたときに、突然非常に大事な佐渡市奨学金貸与条例が出てきて、そのときにはもう既に議会が終わり、新教育長は専決を済ませていた。つまり非常に重要な事項であるにもかかわらず、誰もその議案にかかわった教育委員がいない。教育長以外はいないという状況が起こってしまった。そのとき質問させていただいて、学校教育課長さんに答えていただき、結論を言うと時間がなかったということであった。しかし、そういう大事なことに教育委員がかかわらないということそのものが形骸化なんです。これはもう起こってしまったことですので、これ以上言いませんけれども、二度とこういうことがないように常に時間的に猶予を持ちながら、大事なことは教育委員会議ないしは総合教育会議にぜひかけていただいて、意見を言わせていただきたい。そうでないと委員の責任が持てない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三浦市長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ はい、すみません。そこのところこちらも把握しきれていなく、すみませんでした。いずれにしても、今ご意見いただいたように、これは毎年何月と何月に開くというよりも、いわゆる節目のタイミングの定例の教育会議の形は当然やんなきゃいけないですけど、それ以外は教育委員会の方からも何か新しい動きの芽出しを考えたり、施策を考えるスタートの時点で随時お声</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 渡邊教育長</li> <li>・ 三浦市長</li> </ul>	<p>がけして開催するというところは頑張らせてもらいたいと思いますので、よろしくをお願いします。いいですね、教育長。その方法でいいよね。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ はい、随時で。</li> <li>・ 定例の会は決めておいて、それ以外もそういう教育委員会の政策なり、新たな手法を掲げたいみたいな芽出しをするタイミングについては、ご意見等を含めて1回皆さんに説明する上でご意見聞いて、その後の最終的な具体案をつくっていくという形を、大事なことについては総合教育会議を開くということです。それは内容によって教育委員会も教育委員会の中で開くというか、要するにまったく佐渡の市民の皆さんと同じタイミングでしか何も知らないという形はよくないと思うんで、それは教育委員会の中での会議でも総合教育会議でもそこは物によってどっちの会議の開催かは判断していただければいいのかなとは思っています。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 渡邊教育長</li> <li>・ 三浦市長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ わかりました。</li> <li>・ 総合教育会議という限定になると、また私の日程から何から調整が必要で、そしてまたずるずるといくよりは、ちゃんと教育委員会の中でもめればいいのかと思います。そこら辺で、あとは教育委員会をお願いします。今日はここで終わらせていただければと思いますが、よろしいでしょうか。</li> <li>・ では、事務局の方にお返しします。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 吉田学校教育課長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本日は、ご協議ありがとうございました。本日多くのご意見を頂戴しております。今現在平成30年度の佐渡市の教育行政方針の策定に取りかかっている最中でございます。あと、今後また学校に示します学校教育の重点事業と本日のご意見、先ほどの教育行政方針と重点事業の方にどのように反映させていくか、また持ち帰りまして検討させていただきます。本日は、活発なご意見等大変ありがとうございました。</li> <li>・ 以上をもちまして平成29年度の第2回佐渡市総合教育会議を閉会いたします。</li> <li>・ お疲れ様でした。</li> </ul> <p style="text-align: right;">午後4時26分終了</p>